

ローカルファンドを活用した 西条市商店街の活性化

愛媛県立西条高等学校国際文理科国際科2年 河端 彩伽 近藤 優月
三村 峻介 渡邊 宏樹
指導者 永井 紀之

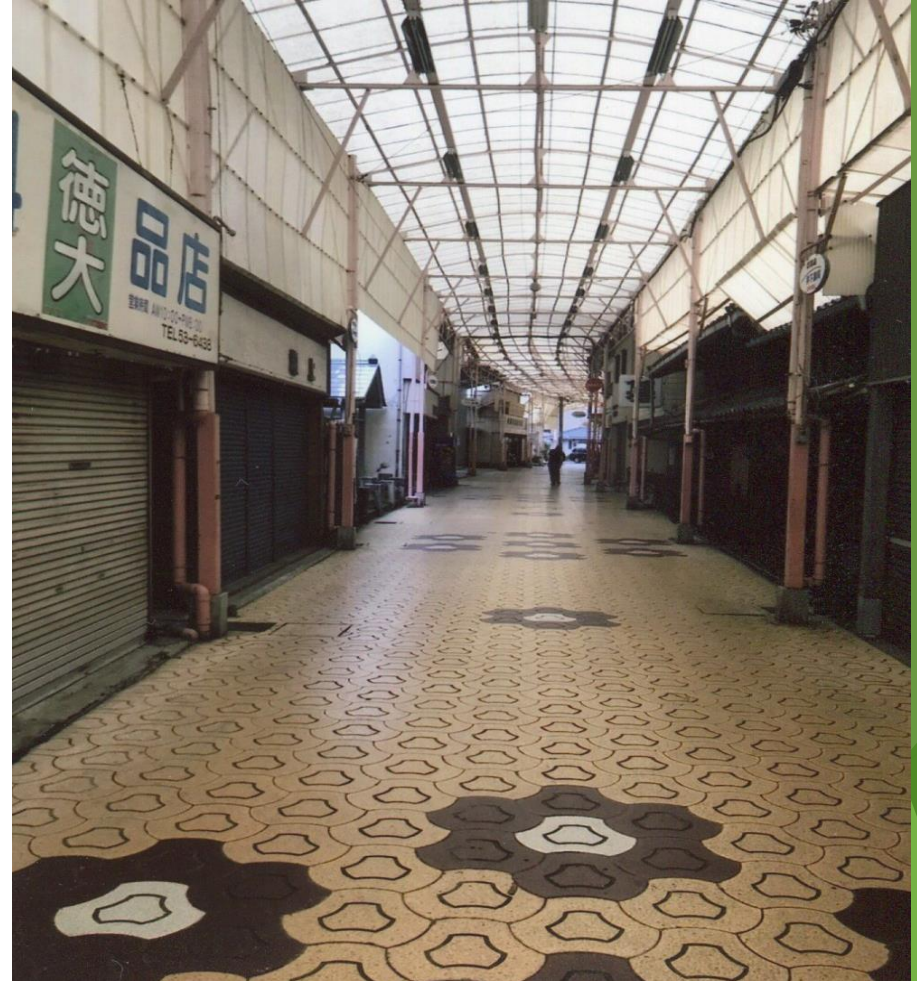
1 研究背景

＜商店街の現状＞

- ▶ シャッター街、回遊人口の減少
- ▶ 西条市のイメージダウン

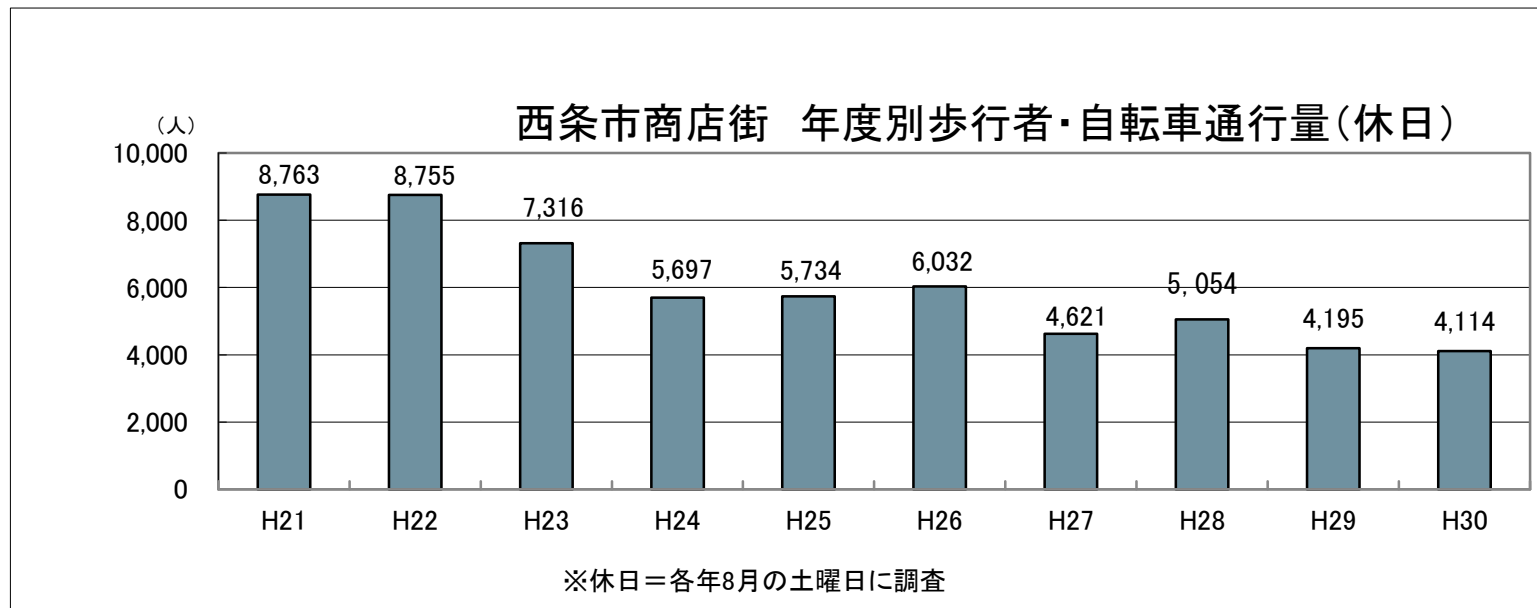


- ▶ 西条市役所職員の方々と
との共同研究
(ローカルファンドを活用
した商店街の活性化策)



2 研究目的・意義

- 『西条市市街地活性化基本計画』（H20,7~H26,3）
 - ▶ 中心市街地の「活性化には至らなかった」と判断。
（「最終フォローアップ報告」H26,5）
 - ▶ 歩行者・自転車通行量（休日）は、10年前から半減。



(西条市産業振興課
作成資料)

- 「四国鉄道パークin SAIJO」の観光客は多い。
(H29の四国鉄道文化会館入館者数は約5万4千人)



- ・ 地域資源を生かして商店街へ呼び込む方策を研究。
- ・ 費用にはローカルファンドを活用。

● 回遊人口増加 → 商店街の活性化

- ▶ 地域の人と訪れる人の交流の場になる。
- ▶ 高校生が安心して登下校できる。
- ▶ 様々な活動の舞台になる。

3 仮説

▶ 観光客をはじめ、商店街の回遊人口を増やすには

① 商店街を組み込んだフットパスコースの整備

② 空き店舗を活用し「まちかど博物館」の整備

→ その費用にローカルファンドを活用できる。

4 研究手法

- ▶ フィールドワーク、インタビュー、アンケートで、現状と課題を把握する。
- ▶ 回遊人口増加を図る方策を検討する。
- ▶ ローカルファンドの理解を深め、活用の是非を考える。

5 結果・考察

(1) 商店街の回遊人口増加を図る方策

● 「水巡り悠歩事業」 = 回遊を促す取組 の現状

- ▶ 「水巡りガイドツアー」利用者142名（H29年度）
- ▶ レンタサイクル利用数529台（H29年度）
- ▶ 「うちぬきウォークラリー」の参加者は年々減少



観光客を呼び込めていない

方策① フットパスコースの整備

- ・ フットパスとは
 - ・ ・ ・ イギリスを発祥とする、地域に昔ながらの風景を楽しみながら歩く「小径（こみち）」のこと。



日本フットパス協会HPより

フットパスの魅力

- ・ 住民が見つけた地域の魅力がコースになる。
- ・ まちのオンリーワンの魅力が浮き彫りになる。
- ・ 住民が自ら関わり地域に誇りをもてる。
- ・ 訪れる人が地域の魅力を味わいながら回遊する。

フットパスの事例

▶ 熊本県美里町

- ・ 昔の街並みを生かしたコース
- ・ 「外部の人との交流で元気になる、住民が集まるきっかけになる」と歓迎

▶ 東京都町田市

- ・ 観光客が増え、高い経済効果



美里フットパスHPより

アクアトピア水系

- フットパスコースに適している。
→ 「うちぬき」の魅力

- 駅から少し離れているのが難点



商店街の「昭和の街角」

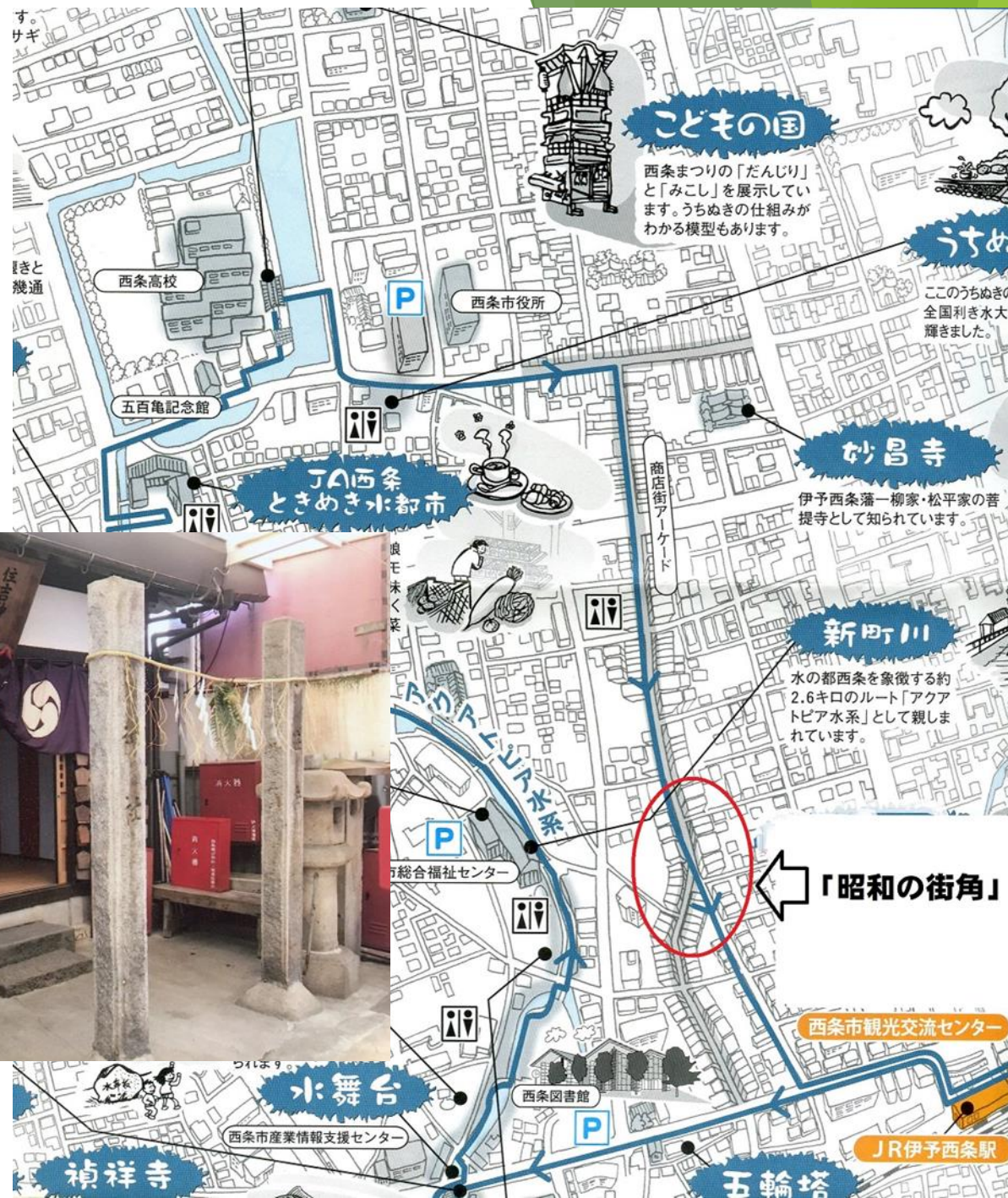
- ▶ 松葉家・住吉神社
- ・ 昔のたたずまいを残すお店・建物



松葉家



住吉神社



商店街の「昭和の街角」

▶ 三谷製菓店

- ・ 地元にも愛される「みたにのおもち」

▶ 佐藤日進堂書店

- ・ 創業96年
- ・ 昔の本が多くある
- ・ レトロな本屋さん



佐藤日進堂書店

「昭和の街角」の事例

▶ 愛媛県大洲市の「ポコペン横丁」



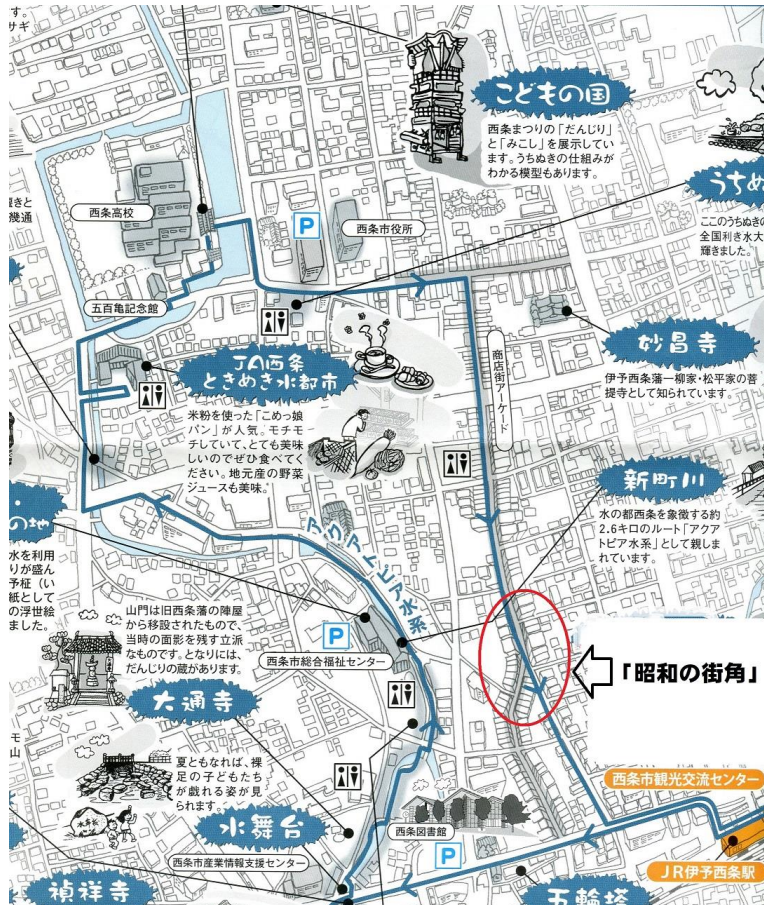
大洲観光協会HPより

観光客に人気

- ・アンケート（観光交流センターで実施）でも支持多数

フットパスの魅力発信には・・・

▶ まち歩きマップの更新



西条の水巡りマップ



三津浜のマップ

コース整備には・・・

- ▶ 一目でわかる道しるべ
- ▶ 史跡や建物の由来がわかる案内板



現在の道しるべ



紺屋町の案内図

方策② 「まちかど博物館」の整備

▶ 商店街には空き店舗が多い。

→ 再生・活用により活気が生まれる。

西条商店街の現況調査推移表

	H16	H20	H25	H29
店舗数	222	215	152	156
営業店舗	146	120	87	97
空店舗数	76	95	65	59
空店舗率	34	44	42	37

(西条市産業振興課作成資料)

空き店舗の再生・活用事例（三津浜）



旧濱田医院



『愛媛新聞』 2018.10.31

商店街の魅力的な空き店舗



旧井下薬局



旧木原眼科

空き店舗に「西条祭り展示・体験施設」を

- ▶ 複数の空き店舗を活用して
 - ① 写真・グッズの展示、販売ブース
 - ② ビデオ上映ブース
 - ③ 衣装体験ブース
 - ④ 休憩・交流スペース



西条市役所HPより

「だんじり絵巻シャッタープロジェクト」 とのコラボで

▶ 西条祭りをテーマにした
「まちかど博物館」に

→ 回遊性が生まれる。



NPO法人うちぬき21プロジェクトHPより

「まちかど博物館」のメリット

- ▶ 観光客に祭りの魅力をアピールできる！
- ▶ 地域の人にとっても魅力的！
- ▶ 観光客と地域の人との間に交流が生まれる！



西条市役所HPより

「まちかど博物館」整備には・・・

- ▶ 空き店舗のリノベーション・耐震補強
- ▶ 資料の収集と整理、展示作業
- ▶ ブースの管理人を置くこと



地域の人が担い、地域の魅力を再発見

(2)ローカルファンド活用の意義

▶ ローカルファンドとは？

- ・ 地域課題の解決、地域資源を活用して地域活性化を図るための基金。
- ・ 地域のお金を地域に循環させる。
- ・ 出資者は地域の人々。
- ・ 出資を通して地域の未来に関わる。

西条市版ローカルファンド（ふるさと基金）構想について

西条市版ローカルファンドが目指すところ

資金調達例

【市民から】

- ・寄付
- ・遺贈（寄付）
- ・出資

【民間企業から】

- ・寄付
- ・金融機関の融資、出資

【行政から】

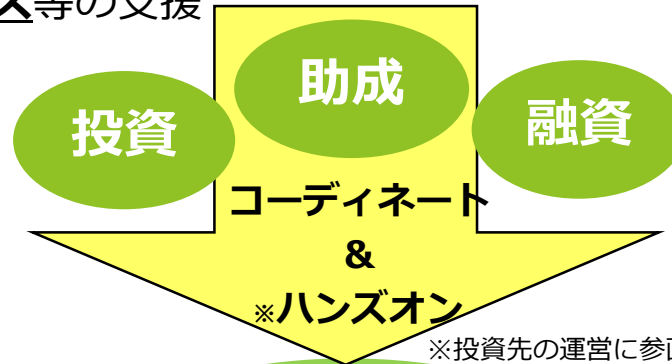
- ・目的別補助金の運営委託

Point : 社会的収益の見える化

Point : 社会的認証（信用）

西条市ふるさと基金（仮称）

地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネス等の支援



活用例

- **助成**
公益活動への補助金
事業指定寄付制度
冠基金による助成制度
- **助成+融資**
金融機関との協調融資
- **融資**
コミュニティビジネス支援融資
- **西条市版SIB**
(ソーシャルインパクトボンド) 行政補助金等を成果型へ移行
- **地域通貨**
=人と人をつなぐ交換ツール
電子マネーの活用等

非資金的支援
(基金と連携)

★幅広い市民参加、
人のつながりが
支える地域

西条市の将来像

★ソーシャル
イノベーション

【人がつどい、まちが輝く、
快適環境実感都市】

★ヒト・モノ・カネ
が地域で循環

★産業の新たな流れ
仕事と家庭のバ
ランス良い暮らし

★豊かで自立した持続
可能な地域社会の形成

(西条市地域振興課作成資料)

商店街活性化とローカルファンド

▶ 商店街の役割

- ・ 地域経済への貢献
- ・ 人々の交流の場
- ・ 様々な「記憶の集積体」 = 懐かしい場所

▶ ローカルファンド活用の適性

- ・ 提案は地域資源を生かした取組
- ・ 出資が期待できる

6 結論

▶ 商店街の回遊人口増加策として

- ・ ① フットパスコースの整備
- ・ ② 「まちかど博物館」整備



効果的

▶ ローカルファンド活用の意義

- ・ 地域に根付いた取組
- ・ 「記憶の集積体」である商店街の再生

商店街の新しい動き

▶ 「工房オクノホソミチ」の出店

▶ 商店街の活性化とは？

- ・ 交流の場
 - ・ チャレンジの場
- 有効活用すること



LOVE SAIJOのHPより

今後の課題と展望

▶ 提案の具体化に高いハードル



▶ 高校生の参画も可能

▶ 市民自ら行動する必要

- ・ローカルファンド

= 「地域の未来に我がこととして関わる」

引用・参考文献

- ・ 西条市『西条市中心市街地活性化基本計画』
(平成20年7月～平成26年3月)
- ・ 西条市『認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップ
に関する報告』 (平成26年5月)
- ・ 藻谷浩介『完本しなやかな日本列島のつくりかた』
(新潮文庫、2018年)
- ・ 牛尾洋也他「フットパスを活かした地域づくり活動調査」
(龍谷大学『里山学研究センター2017年度年次報告書』)
- ・ 『朝日新聞』2019年1月22日「列島をあるく―統一地方選を前に」

ご協力いただいた方々

- ・ 商店街各店舗（インタビュー）
- ・ NPO法人うちぬき21プロジェクト（インタビュー）
- ・ 観光交流センター（アンケート、インタビュー）
- ・ コトラボ合同会社「ミツハマル」（フィールドワーク）
- ・ 西条市役所自治政策研究所（共同研究）

ご静聴ありがとうございました

